目的

・デリバティブ（オプション）が何なのかわかるようにする

・オプションによる投資戦略とそのメリットなどがわかるようにする

・オプションの価格付け（メインではない）

1. オプションの概要

* （～市場取引されているの直後に挿入）デリバティブとはある資産（原資産と呼ぶ）の価格に応じて価格が決まる資産を指す．
* （第一生命の例を置き換える）例えば，A社株式（=原資産）を2021年12月25日に1株3,000円で購入する権利があるとする．この権利の価格は原資産であるA社株式の価格に依存して決定される．A社株式が平均的に1,0000円で推移していればこの権利はお得（＝価値が高い）であると感じるが，100円で推移していれば2021年12月25日に高い金額を支払って株式を購入することになる可能性があるので，損（=価値が低い）するように思える．
* （デリバティブの種類の表の上）デリバティブには様々な種類がある．表●●にはそのうち主なデリバティブについて記載している．
* （種類の表）【先物】「先物取引」将来の予め定められた期日に，現時点で決めた価格で「原資産」を売買する取引．【オプション】「オプション取引」将来の予め定められた期日に，現時点で決めた価格で「原資産を売買する権利」を売買する取引．【金利スワップ取引】同じ通貨で異なるタイプの利息を交換する取引．中でも変動金利と固定金利の交換が最も典型的．
* （デリバティブを活用することによりの文中）金融リスクを軽減すること（＝リスクヘッジと呼ぶ）
* （デリバティブを扱う市場は…）➡削除「本章ではオプション取引を用いたリスクヘッジの手段を説明する．」

1. オプション取引
   1. オプション取引の概要

* （最初の文章）本インターンではデリバティブの中でもオプションによるヘッジを考える．
* （1.3.1オプション取引とは，２分目）削除
* （権利の取引であるとされる．の直後）オプション取引は満期において購入するか売買するか，どの時点で権利を行使するかによって種類が異なる．（図）
  1. オプションのペイオフ
* （1.3.2節直下）デリバティブの文脈におけるペイオフとは，デリバティブ取引における満期での損益を意味する．1章で記載した通り，デリバティブはリスクヘッジの手段として売買されるが，効果的にヘッジをするためにはデリバティブのペイオフを理解する必要がある．本節では特にオプションのペイオフを明らかにし，具体例で確認する．

まず初めに，オプションのペイオフを記載する．このために必要な変数を以下の記号で定義する．

:時刻における原資産の価格

:権利行使価格

:満期

:取引時点（オプションを売買した時点）のオプションの価格

オプションのペイオフは以下の図 1のようにあらわされる．



図 1　オプションのペイオフ